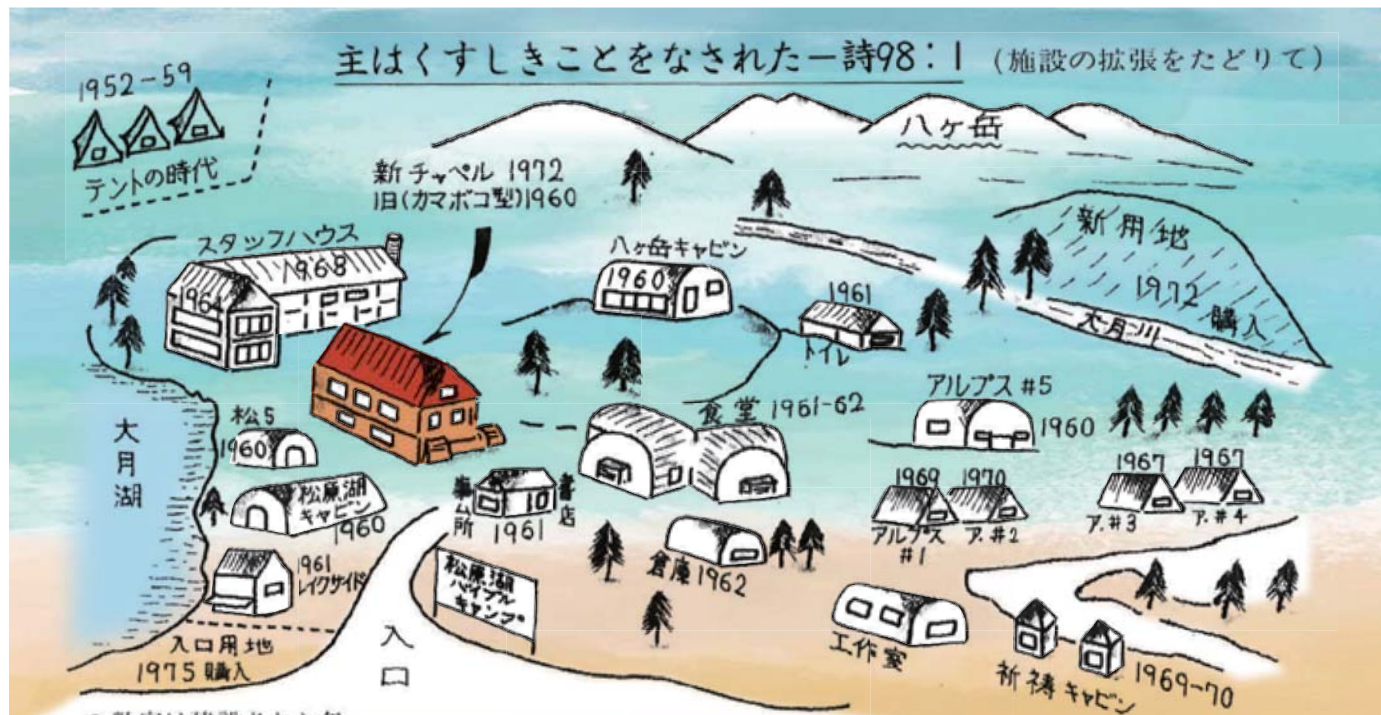


the 松原湖

特集号

発行：〒384-1103長野県南佐久郡小海町豊里4912 松原湖バイブルキャンプ Tel.0267-93-2347 Fax.0267-93-2475



『その時々 ふさわしい器』

松原湖バイブルキャンプ委員会
元委員長
高橋 愛一郎



歴代の委員長のお名前を見ても、自分がそこに並べられることに大きな抵抗を覚えます。また、歴代の委員長が成してきたこと、リードしてきたことと比較して、自分が何を成し得たのだろうかと思いつつも、何となく思いつかずに、ただ、自分が成したこと、印象は薄くても、神様がキャンプ宣教を見守り、支えてくださったとの印象は強く残ります。

私が委員長を受け継いだのはコロナ禍前で、今回委員長を退任するのはコロナ禍後になります。あのとき、直前まで企画しても、緊急事態宣言や感染状況により、中止を余儀なくされたときの徒労感。通常の倍も委員会を開催し、その都度重要な決定をしなければならぬ緊迫感。共に苦しみ、祈りを紡いだ委員や奉仕者の皆様には頭が下がります。また多くの献金と祈りで支え、くださった皆様の熱い思いに心から感謝します。キャンプ宣教は主の働きであり、それぞれがそこに主体的に参与していくものだなあと実感します。自分としては何かを成し得た実感は乏しいけれど、耐え抜く務め、それが主から自分に委ねられていたことかもしれません。

そして、バトンは渡された。新委員長はまさに次の時代にふさわしい器です。MB

『バトンを受け 継いでいくために』

松原湖バイブルキャンプ委員会
新委員長
吉持 尽主



いつも松原湖バイブルキャンプのために祈りありがとうございます！春も祝福されたキャンプとなり、心から感謝しています。今回、委員長のバトンを受け継ぐことになりました。委員会の働きのために祈りくだされば幸いです。

キャンプの働きはこれまで70年以上に渡ってそのバトンが受け継がれてきました。その受け継いできたバトンの核となるのは救霊への情熱でしょう。たましいの救いと霊的成長を願って、私たちはキャンプ宣教という方法をとってきました。それに加えて、私たちはキャンプ宣教のために、その器であるキャンプ場も大切にしてきました。そして、今、委員会でも心合わせていることは、このキャンプ場の器である松原湖バイブルキャンプ場を次の世代に受け継いでいくことです。その思いの具体的ななかたちがこの75周年事業です。このバトンを次の世代に受け継いでいくために、ぜひ心を合わせてお祈りくだされば幸いです。

Cを通してなされるキャンプ宣教の前進のため、これからもますます皆さんの祈りとご支援を必要としています。共に主のみわざを見て、御名を崇めましょう！

昨年実施された主な工事



ハケ岳キャビン女子トイレ天井修繕工事/
チャペル屋根雨漏り修繕工事/カナン屋根修繕工事
工事期間：2024年6月4日、25日、26日



ハケ岳キャビン男子トイレ便器交換工事
工事完了日：2024年9月27日
施工業者：黒沢燃料



シオンキャビン汚水ポンプ交換工事
工事完了日：2024年10月1日
施工業者：黒沢燃料



「にう」キャビン 浄化槽地中管修復工事
工事完了日：2024年11月22日
施工業者：黒沢燃料

※この他にも、日々の点検・修繕を含め、キャンプ場の安全と快適さを維持するための様々なメンテナンスを継続的に行っています。

MBC献金のお願い

MBC75周年事業のための費用が 満たされるように

75周年記念事業「チャペル改修工事」の総工事費用は、約1,000万円を見込んでおります。このうち、300万円は「75周年記念事業献金」、600万円は「キャンプ債」によるご支援を通じて、共にこの働きを担っていただければと願っております。

75周年記念事業献金のお願い

1口5,000円を目安としておりますが、献金額に決まりはありません。ご無理のない範囲で、いくらからでもご自由におささげいただけます。なお、1口(5,000円)以上ご献金くださった方には、感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈いたします。

キャンプ債のお願い

75周年記念事業の一環として実施する「チャペル改修工事」のため、資金の一部をキャンプ債というかたちでご協力いただきたくお願いいたします。

キャンプ債とは、将来的な返済を前提としたご支援の方法です。返済の時期や方法については、後日あらためてご案内いたします。

**未来のキャンプ場の働きのために、
ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。**

今後予定している工事

○チャペルトイレ新設○祈祷キャビン修繕○チャペル下の環境改善（外壁の土砂の下に排水管理設）○シオン食堂床修繕○シオン食堂湖側デッキ改修○ごみ捨て場改修、カナンリフォーム○写真撮影台の修繕○アルプスキャビン改修○しらかばキャビン改修○ハケ岳トイレ改修○しらかばキャビン改修○場内アプローチ舗装○アウトキャンプ場テント台改修○クライミングボード修繕など

これらの整備を通して、より安全で使いやすい環境を整え、大自然の中でも安心して過ごせるキャンプ場を目指してまいります。引き続き、皆様のお祈りとご支援を心よりお願い申し上げます。



編集後記

今回の『The 松原湖』号外は、松原湖バイブルキャンプ宣教 50 周年記念誌『主の山』を主な参考資料として作成しました。

資料に目を通す中で、どれほど多くの奉仕者の方々がこの働きのために祈り、ささげてこられたかを、編集作業を通じて改めて感じさせられました。このような貴重な記録を残してくださった当時の松原湖バイブルキャンプ委員会の皆さまに、心より感謝と敬意を表します。

そして、この尊い働きが、これからの世代へと引き継がれ、さらに豊かな実を結んでいくことを願ってやみません。



『チャペル屋根改修工事』

—— 来年、75周年事業としてチャペル屋根改修工事がスタートします！



見積・施工体制

概算見積もりは、日頃よりキャンプ場の施設メンテナンスに携わり、チャペルステージ改修でも腕を振るってくださった地元・大秀建設さんに依頼しました。屋根板金工事は、大秀建設さんから紹介いただいた信頼できる職人さんが担当されました。

小海町という地域性を考慮し、今回は他業者との相見積もりは行わず、この1社で進める予定です。その分、施設整備小委員会が工事計画・施工管理・品質管理を責任をもって監督し、関係する専門家の助言を得ながら進めてまいります。

また、屋根改修工事に合わせて、チャペル周辺の立木の剪定も予定しており、現在、信頼できる業者を選定中です。

◆工事費用(概算)

総工事費用は約1,000万円を見込んでいます。

- 屋根改修工事：900万円（木工事：450万円
板金工事：450万円）
- 立木剪定工事：100万円
（1本あたり約10万円、計10本程度を予定）

◆資金計画

1,000万円の費用は、以下のような形で皆様のおさげによって満たされることを期待しております。

- 75周年献金：300万円
- キャンプ債：600万円
- 施設指定献金(年間350万円のうち)：100万円

ベタニヤ・チャペル※の名称について

ショーン師の説明によると、「ベタニヤ」は聖書に登場する、エルサレム近郊のパレスチナにある小さな町の名前です。聖書には、主イエスが公生涯の3年間に、この町を5回訪問されたと記録されています。その詳細は『主の山』宣教50周年記念誌に記されていますが、主イエスがその都度、異なる特別な目的をもって滞在されたことに由来しています。

すなわち、休息の場、交わりの場、主にある新しい生命を得る場所、主への犠牲をささげる場所、そして大いなる祝福の場として確信されたことから、「ベタニヤ」と名付けられました。

このベタニヤ・チャペル、そして現チャペルは、いずれもキャンプ場の中心に建てられています。それは、私たちの考え・行い・将来のすべての計画において、常にキリストご自身が中心であってほしいという願いを込めて命名されたものです。

※「新改訳2017」では、この地名は「ベタニア」と表記されていますが、本誌では、当時親しまれていた呼称「ベタニヤ」を尊重し、そのままの形で記載しています。

現状として

1974年にすべての工事が完了した新チャペルは、今年で創建から51年目を迎えます。時と共に施設は老朽化し、特に屋根部分は、ガルバリウム鋼板の経年劣化により腐食や塗装の剥がれが著しく、雨漏りに対する懸念があることから、チャペルの維持には早急な対処が必要となっています。

工事の趣旨

今回の工事では、「既存の屋根材を撤去せず、その上に新たな屋根材を被せる」工法を予定しています。これは、痛みの激しい既存の屋根材を剥がすよりも、下地を整えてその上に被せるようにして新たに葺くことで建物本体への影響を最小限に抑え、コストの削減にもつながると判断したためです。

また、大月湖側の軒天部分では、湖水から上がる湿気の影響とみられる合板の腐食が進み、落下の危険性があることから、至急の対応が求められています。ここには無垢の羽目板を新たに使用し、内側から見ても木の美しさが活きるような、湿気に強く景観性にも優れた仕上げを計画しています。

2026年春から夏にかけて、キャンプ場の閑散期である4月～5月に工事を実施し、梅雨入り前の完成を目指します。

松原湖バイブルキャンプ場

施設発展の歩み

松原湖バイブルキャンプは、1952年の小さなテントから始まり、時代ごとに必要に応じて整備・拡充されてきたキャンプ場。建物や設備の背後には、多くの祈りと奉仕があり、すべてが「人々が神と出会う場」として用いられてきました。

1951(S26)年	ショーン夫妻、松原湖を訪れキャンプのビジョンを得る
1952(S27)年	第1回キャンプ開催。 1952～1959は「テント時代」
1959(S34)年	伊勢湾台風直撃で施設に大きな被害
1960(S35)年	米軍払い下げのカマボコ型キャビンを移設、そのうち一棟が「ベタニヤ・チャペル」として用いられる
1962(S37)年	「カナン」キャビン建設
1963(S38)年	スタッフハウス建設開始
1966(S41)年	「アルプスキャビン」建設スタート
1968(S43)年	スタッフハウス増築、風呂が完成
1969(S44)年	「祈禱キャビン」建設
1971(S46)年	新チャペル着工。「レイクサイド」「白樺」キャビン建設
1976(S51)年	25周年記念集会、新チャペル献堂式
1978(S53)年	新食堂建設プロジェクト始動
1984(S59)年	新食堂完成
1988(S63)年	ハケ岳・赤岳・横岳1・2キャビン完成
1990(H2)年	新横岳キャビン完成
1998(H10)年	食堂玄関にスロープ設置(バリアフリー化)
1999(H11)年	「アウトあずま屋」、ワーカースキャビン「にう」建設年
2004(H16)年	新キャビン「レイクサイドシオン」完成
2017(H29)年	旧スタッフハウス跡地にウッドデッキ設置(集いの場)
2022(R4)年	チャペルステージ拡張工事(開放的な礼拝空間へ)
2026(R8)年	創立75周年記念事業「チャペル大屋根工事」予定

松原湖バイブルキャンプ場 チャペル特集

～これまでの歩み～

1971年秋～1974年



『新チャペル建設と完成』

設計：ハーランド・ハフ氏(チェンバレン師の叔父)。雨・出水・資材高騰など多くの困難を経ながらも、諸教会の祈りの支えにより前進。1973年：1階部分の内装を残し完成。1974年：全工事が完了。キャンパー・スタッフ含め約270名を収容可能に。

1952～1959年

『7張りのテントから』

「当時、私たちはテントで休み、テントを食堂とし、テントを書店にすれば、またテントが礼拝の場であるという、すべてがテントづくめの生活であった。初期のチャペルは幅5メートル、奥行き10メートル。そしてその後ろに幅3メートル、奥行き5メートルの講師用の部屋があった。このような状態でありながら、頼みとする携帯自家発電機が一樣に動かず、しばしば夜の集会はキャンドルライトで開かれることがあった。」— ジョン・ショーン師

1960年



『カマボコ型キャビン “ベタニヤ・チャペル”』

前年の伊勢湾台風により甚大な被害を受けたキャンプ場。テントに代わる恒久的な施設を祈り求め、米軍の兵舎5棟を払い下げで取得し移設。そのうちの1棟が“ベタニヤ・チャペル”と名付けられ、御言葉の場として長年用いられた。

1976年



『新チャペル献堂式と創立25周年記念集会』

1976年8月15日、創立25周年を記念した集会を開催。記念説教：安藤伸市師。ディレクター就任式：岡村又男師。新チャペルの献堂式も同日行われた。この日に祝辞を述べたのは、施設工事に長年携わってきた小池悦三氏：「皆さんもご承知の通り、この場所は、本当に神さまの場所です。折れば、本当にこたえて下さるのです。」

1960年代



『主催キャンプの充実』

1961年：中高大学生キャンプが男女合同化。英語キャンプも新設。
1965年：初の小学生キャンプが開催され、保護者向けプログラムも並行して始まる。

2022年



創立70周年記念事業として、チャペルステージの両脇の壁や梁・柱を撤去。より使いやすさを追求した改修が施され、今もなお、時代のニーズに応えるチャペルとして用いられている。施設のさらなる活用については、現在もキャンプ委員会を中心に検討が続けられている。

1965～1969年

『拡張5カ年計画』

ジョン・ショーン師が示した次代への青写真。柱となる3つの提案：A. 新しい奉仕分野 B. 新しい人事 C. 新しいキャンプ施設。この中で、「200人収容可能な新チャペル建設」が計画に盛り込まれた。

1968年

『新チャペル建築計画』

10月、拡張計画に基づく、キャンプ場史上最大規模の建築が始動。長年多くの人に用いられた“ベタニヤ・チャペル”も、解体されることとなった。

チャペルエピソード募集

あなたの心温まる素敵な“チャペルエピソード”があれば、ぜひお聞かせください。

～チャペルエピソード～

碧南聖書教会 菊池 充

チャペルの思い出は沢山ありすぎて選ぶのが難しいほどです。

高校1年の夏に信仰を決心したのもチャペルでした。今でもハッキリと覚えていますし、当時のしおりもそのまま取ってあります。キリストに心から出会うことのすばらしさを本当に知ったのも、このチャペルです。献身をしたのもこのチャペルでした。グラウンドでは数え切れないほどチャペル掃除をしました。たまたにヒマラヤに登ってサボったりもしました。神学校時代恋に破れ「神なんかいるかー！」と神学校内で叫び、その壊れた心を癒やすために行った場所はココのチャペルでした。

しかし、なんと言っても「チャペルの屋根から飛び降り骨折事件」がインパクトあります。その日はキャンプとキャンプの中日で布団をチャペル屋根に干すのがグラウンドのメインジョブでした。軽トラで布団を運び、チャペル横（現シオン側）にハシゴを掛けて屋根に干したの

です。日をたっぷり浴びた布団はフカフカです。干し終わった布団をブルーシート上にどんどん落として行くと布団の山ができました。「誰が一番根性あるか飛び降りよーぜ」。誰ともなくそんな空気になると、あっという間にキッチンにまでその話が付き、キッチンから「がんばれ～」とか「〇〇君カッコ良い～」とか聞こえてくると何を血迷ったか、ある一人の男性が「オレはふとんはいらねえ！」と言って地面に直接飛び降りたんです！着地したその時、何か体の中できしむいや～な音が聞こえてきました。彼はそこでうずくまり唸り声を上げています。そして、そのまま佐久総合病院へ運ばれ、松葉杖の姿でキャンプ場に戻ってきました。

チャペルの思い出とは霊的な思い出も詰まっていれば、それだけではなく、いろいろとあるものです。今ではすべてが懐かしい思い出、笑える思い出となっています。

